

イリナちゃんは  
私たちの目の前で  
解体された。



肉片は  
料理されて  
ゴブリブリンの  
ごはん

少しだけ  
私たち生き残りの  
三人の分として  
渡された



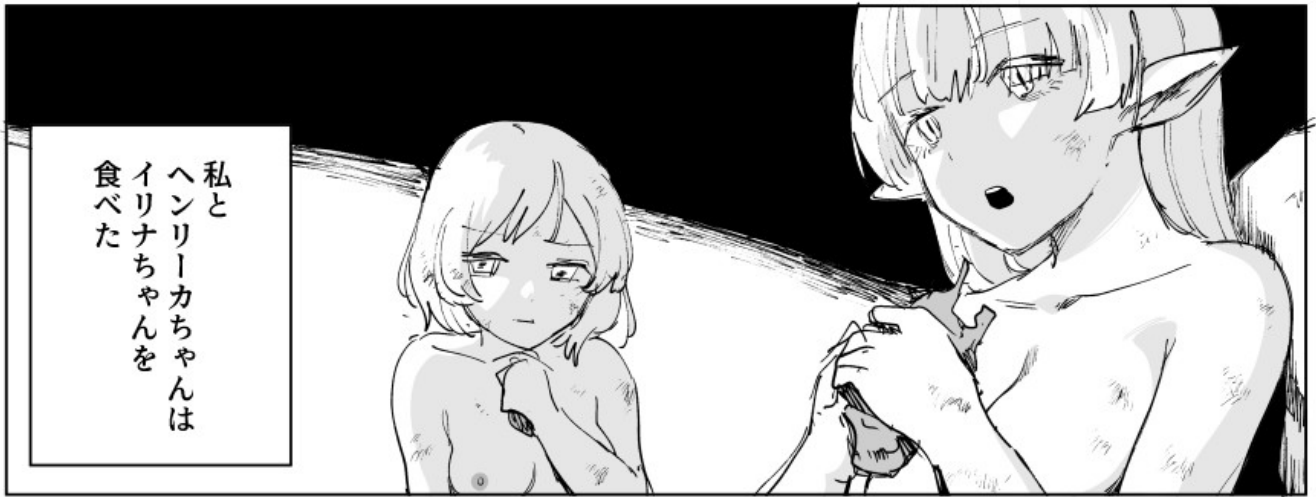
アーダ  
さん……  
これ……


アーダさんは  
一口も  
食べなかった

弱っていて  
何も食べられ  
なかったのかも  
しれないし

イリナちゃんの  
お肉だから  
絶対に食べたく  
なかったのかも  
しれない





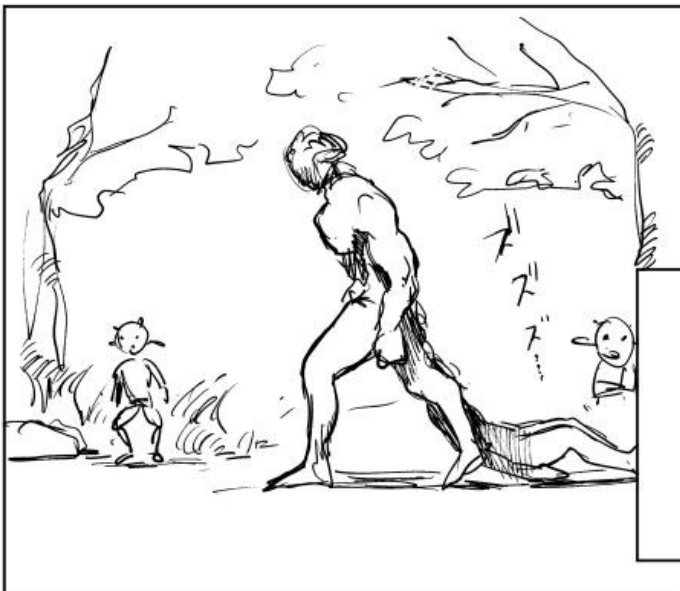


産まれるのは  
人間じゃなくて  
ゴブリプリンだ

生まれた子がいつか  
人を殺すかも  
しれないのに……？

もし私が  
孕んだら……

いっそ  
私は――

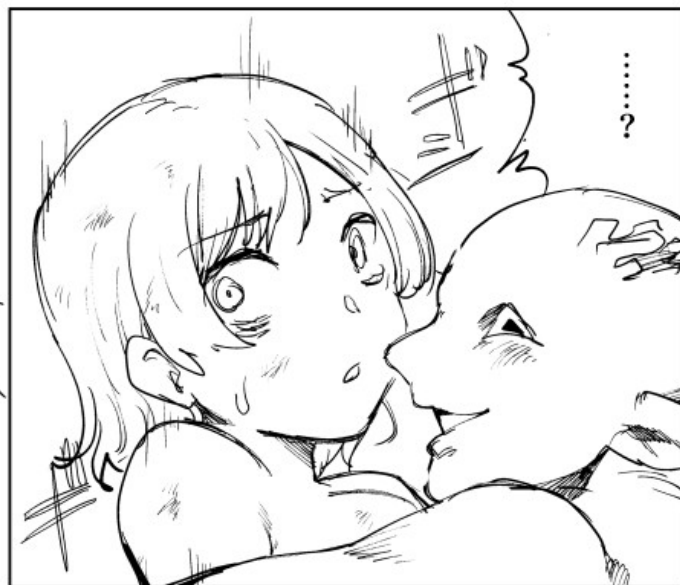


日が明けると  
また  
凌辱が始まる

いつ  
抜け出せる  
のかな……？



「死んだ」

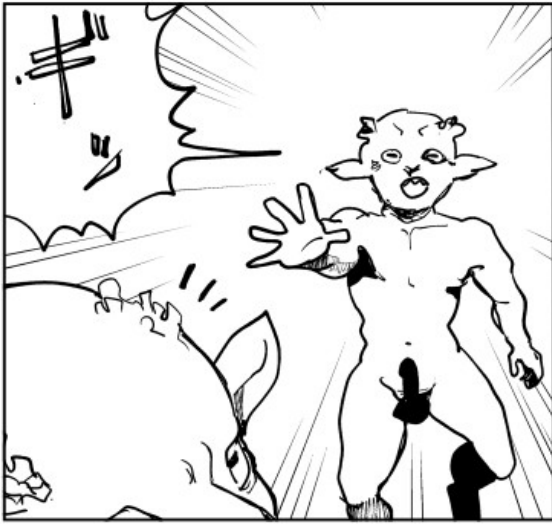






「好きに使え。」





アーダさん……  
とうとう  
死んじゃったんだ





いや……  
これは……



「分けて  
るんだ」

たくさんが同時に  
使えるように







アーダさんの亡骸は  
しばらく犯され  
続けて――

ぐちゃぐちゃに  
されて  
捨てられて――



## アーダ(20)

武人氣質で  
武の道を究めるべく冒険者になった。  
ハルシュとは12歳の頃に知り合い、  
当初はハルシュとの二人組の冒険者として  
名を挙げた。ハルシュのことは良き友であり  
ライバルだとも思っている。

ボスゴブリブリンに気に入られ、  
専用で使用されることになる。。  
生きている間は  
他のゴブリブリンの使用が  
禁じられていた。

左腕の欠損や  
重なる凌辱が要因となり  
衰弱死した。  
ボスゴブリブリンと繋がったまま  
最期を迎えたのだった。

パーティー5人の中で  
おっぱいが一番大きい。

